

30都学力調査「児童・生徒の学力向上を図るための調査」（5年）結果から

（実施日 平成30年7月4日）

1 4教科の結果速報値（正答率％、【 】内は都の平均値）

教科	平成28年度（7月）	平成29年度（7月）	平成30年度（7月）
国語	65.8【74.3】-8.5	58.8【68.1】-9.3	57.7【65.5】-7.8
社会	71.7【72.6】-0.9	70.9【71.8】-0.9	72.1【69.3】+2.8
算数	51.0【62.9】-11.9	52.0【60.7】-8.7	49.4【52.4】-3.0
理科	57.6【62.4】-4.8	60.6【72.2】-11.6	70.9【69.6】+1.3
計	246.1【272.2】-26.1	242.3【272.8】-30.5	250.1【256.8】-6.7

※ 青いセルは、都の平均を上回った教科。

2 考察

4教科合計の正答率は、平成28・29年度と比べると大きく改善され、社会科と理科の2教科において、都の平均値を超えた。算数科においても、放課後や長期休業中の補充学習の組織的な対応の強化で、あともう少しである。

しかし、依然として、目標である「4教科で、都の平均値を超える」の達成はできていない。また、大きな課題としては、若干改善傾向にあるものの、依然として、都平均との差は大きく、国語科へのてこ入れが挙げられる。

3 対策

今年度、算数科への組織的なてこ入れは図っているものの、国語科に対しては、各担任の補充学習に任されている。

今後、年度中に漢字検定を実施するなど、児童の国語科への関心を高め、また、組織的に国語科の学力定着・向上を図る体制作りを検討し、来年度以降の学力定着・向上に繋げたいと考えている。

校長（高橋）